



きょうだい型人間学で考える、 家族との上手な付き合い方

生まれ順と性格

古くから「お姉ちゃんはしつかり者」「末っ子は要領がいい」などと言われます。同じ家庭環境で育つても、きょうだい間では性格や好みが違います。それはなぜでしょうか。これには、親との関わり方や他のきょうだいからの影響などが考えられます。では、一人っ子はどうかでしょうか。ここでは、きょうだいの生まれ順による特徴を取り上げ、それを踏まえた親子やきょうだい間での付き合い方について考えてみたいと思います。

きょうだい型人間学とは

人間は、生まれた順番によって、性格や行動にある傾向や特徴が表れます。男女に関わりなく、最初に生まれた子を「一番

っ子」、末子を「末っ子」、その中間を「間っ子」、そしてきょうだいのいない「一人っ子」と4つに分類します。長男・長女であつても、上に姉・兄がいる場合、「間っ子」または「末っ子」となります。これが、きょうだい型です。このきょうだい型が示す性格や行動の特徴を明らかにしたのが、きょうだい型人間学です。

きょうだい型人間学による性格診断

①責任感の強い、慎重な「一番っ子」

一番っ子は、親にとつて最初の子であり、期待と緊張のもとで生まれ育ちます。周りの関心も高く、子育て初心者の親との十分な接触を通して、慎重な性格となります。しかし、下の子が生まれると親を独占できなくなり、かまわてほしいと「赤ちゃん返り」が起ることもあります。

寂しさの克服には、親の期待に即した頼りがいのあるしつかり者としての役割が求



磯崎 三喜年

国際基督教大学教養学部教授

【いそざき・みきとし】

心理学博士。きょうだい関係、友人関係における心理機制を研究。主な著書に『きょうだい型人間学』（河出書房新社）、『きょうだい性格診断』（エイ出版社）、『現代心理学』（ナカニシヤ出版）など。

められ、几帳面で責任感の強い性格となります。成績もよく、学歴や社会的地位も高い傾向があります。ノーベル物理学賞受賞者（アインシュタイン博士など）や宇宙飛行士（アームストロング船長、向井千秋さんなど）には、一番っ子が多くいます。特に、女性の一番っ子は、達成意欲が高いようです（政治家ヒラリー・クリントンさん、作家J・K・ローリングさん、児童文学者の村岡花子さんなど）。

②人当たりのよい、調整型の「間っ子」

間っ子は、上と下のきょうだいにはさまれ、微妙な立ち位置にいます。親も子育てに慣れ、力の抜き具合も分かっています。間っ子は、親との関わりも一番っ子ほどではなく、末っ子ほど甘えることもできません。親や他のきょうだいと適度な距離を保ちながら、個性を出そうとします。

間っ子は、人との関係を築くのが上手です。人当たりのよさ、対人関係の調整役に



合っています。平等精神も強くなります。あるテレビ番組で、1グループ3人の幼稚園児に2つのお菓子がのった皿を出し、その後の行動を観察する企画がありました。間っ子同士の3人グループは、いづれも互いにお菓子をどう分けるかを相談し、均等に分けて食べていました。間っ子の典型として、調整型のリーダー（公民権運動のキング牧師）、バラエティの司会者（明石家さんまさん）などが挙げられます。

③ 負けず嫌いで、要領のよい「末っ子」

一番っ子とは対照的に、思い切りがよく、大胆で型にはまらないのが末っ子です。末っ子になると、親は子育てに慣れ緊張も低下します。写真を撮ることも少なくなります。末っ子は、他のきょうだいに何かと助けてもらい、きょうだいの様子を見ながら育つので、要領がよくあります。

その一方で、知力・体力に勝る上の子に對抗心を燃やし、負けん気も強いです。撮影に邪魔な民家を壊してしまったという黒沢明監督、文学博士号を辞退し、大学教授も辞めた文豪、夏目漱石も末っ子です。スポーツ界でも、末っ子が活躍します。

2014年のサッカーW杯では、本田圭祐選手など先発メンバー11人中7人が末っ子でしたし、歴代のホームランバッターでは、王貞治さんや野村克也さんが末っ子です。他にもテニスの錦織圭選手やラグビーの五郎丸歩選手、フィギュアスケートの浅田真央さんや女子バドミントンの奥原希望選手などが末っ子です。

④ マイペースで、ツボにはまると強い「一人っ子」

一人っ子も、親の期待と緊張のもと、周りの関心を集めて育ちます。しかし、ものをきょうだいで分ける必要もなく、喧嘩も起こりません。きょうだいの葛藤やストレスを経験することはありません。親の資源と関心を独り占めできます。一番っ子とは、これらの点で異なります。

その有利さを活かし、周りを気にせず、自分の気に入ったことを自由に享受できます。きょうだいの比較もありません。興味のある得意分野が見つかる、強い自信をもたらしめます。マイペースで、ツボにはまると強いゆえんです。岡本太郎さん・谷川俊太郎さん・坂本龍一さん・村上春樹さん・三谷幸喜さんなどが一人っ子です。

先述したテレビ番組の企画では、一人っ子だけの3人グループのうち2人は、すぐにお菓子を口にしていました。食べられなかった残りの1人も、それを気にする様子はありません。分けて食べる経験がないのでしょうか。分けるのは難しいようでした。

きょうだいで型成立の心理的メカニズム

冒頭で、きょうだいで型は親との関わりやきょうだいの影響を受けると述べました。きょうだいで型成立には、人が暗黙のうちに持っている生まれ順に関するステレオタイプのイメージが、大きな役割を果たします。私たちの中には、生まれ順と能力や社会的地位などとの間にある関係を想定する傾向があります。

例えば、外科医や弁護士、宇宙飛行士などは、一番っ子向きとされます。こうしたステレオタイプは、やがて現実化することがあります。実際ポーランドの調査では、生まれ順と社会的地位との間に関連が見られ、生まれ順が下がるにつれて、社会的

位や学歴が低くなる傾向が見られました。

このように生まれ順に関するステレオタイプは、親や周りの期待、それに即した本人の志向と相まって現実化します。これを「予言（期待）の自己成就」と言います。アメリカでも、一番っ子ほど成績がよいとされ、生まれ順とともに成績が下がるというデータがあります。また日本でも、一番っ子ほど高学歴という傾向が見られます。

きょうだい型人間学の例外とバリエーション

きょうだい型人間学、いかがでしたか。トップアスリートに末っ子が多いと言いましたが、実は野球のピッチャーでは、一番っ子が活躍しています。田中将大投手や松坂大輔投手などは、一番っ子です。個人としての責任が、はつきり出やすいピッチャーというポジションは、一番っ子に向いているようです。

また、こうしたきょうだい型は、組み合わせによっていくつかのバリエーションもあります。家族内やきょうだい間の出来事によって、役割が変わることもあります。いずれにしても、きょうだい型を知ることによって、互いへの理解が深まるといいですね。

親子間の上手な付き合い方

きょうだい型を踏まえ、親子の付き合い方について考えたいと思います。それに

は、子どもへの理解と親自身の自己理解も大切です。なぜなら、親（夫婦）のきょうだい型が、子どもへの接し方に影響している可能性があるからです。

① 優等生タイプの「一番っ子」

一番っ子は、優等生タイプです。親や教師の期待に応えつつも、無理をしがちです。期待が重荷となることもあります。したがって、親子でときに力を抜くことも大切です。社会的な枠を重視する一番っ子は、柔軟性に欠ける面もあります。そのため、きょうだいとぶつかることもありま

② 束縛を嫌う「間っ子」

間っ子は、自分で道を切り開こうとします。親との関わりが少なくなりがちで、手がかからない反面、何を考えているのかわりにくい面があります。親の考えに配慮していないかのようにですが、案外親きょうだいのことを考えています。ただ、自分を抑えすぎるとその反動も出ます。自分の自由も大事にし、束縛を嫌うのが間っ子です。親子で互いを尊重し、過度にその役割を強いることのないようにしたいものです。

③ 憎めない「末っ子」

末っ子は、親に甘えながらも活発で、依存と反抗の両面を見せます。茶目っ気もあり、憎みきれない存在です。言うことを聞

かず、外出先でいなくなるなど、勝手な振る舞いをすることもあります。

これは、末っ子が親きょうだいに囲まれて、気楽さを感じているからです。こうした末っ子の特性を理解し、過剰反応せず、許容することも必要です。本人や周りに危険が及ばない範囲でという前提ですが、

④ 親と仲よし「一人っ子」

一人っ子は、親との関わりが緊密です。何をすることも親のことが頭にあります。親が様々な機会を提供し、それによって、自分に合った事柄を見出すことができれば、一人っ子は自信をつけていくでしょう。

しかし、きょうだいとの接触がないため、特に女性の一人っ子は寂しさを感じ、きょうだいがないと願うことがあります。一人っ子が、社会性を育み、円滑な対人関係を形成できるよう、学校生活以外の場面でも、同年代の友人との接触や時間の共有が望まれます。

きょうだい間での上手な付き合い方

きょうだいがいれば、一緒に遊んだり、教え合ったりします。喧嘩もすれば、身近なライバルとしてよい刺激にもなります。それらの経験は社会化を促し、その後の人生に大きな影響を与えます。小さいころ、それほどよいとは思えなかったきょうだい関係も、大きくなるにつれ次第によくなくなり、きょうだいのありがたみを感じるよう



になります。この傾向は、特に女性のきょうだいで強く見られます。

きょうだいが多くなると、離婚率が下がるといふ研究もあります。これは、きょうだい間での葛藤を含む様々な経験が、他者とのやり取り、夫婦関係にも活かされ、人間関係をより円滑にできるからです。以下、生まれ順ごとにそのポイントを見ていきましょう。

① 「一番っ子」は柔軟性を発揮すべし

一番っ子は、他のきょうだいに比べ、自

分ときょうだいが似ていないなど、距離をおいた捉え方をします。これは知力・体力に優れ、他のきょうだいをリードし、教えたりするなどの経験が多いためです。

食べ物にも慎重で、長生きの傾向があります。他のきょうだいから尊敬されることもありますが、きょうだいの行動を気にしすぎたり、あるいは柔軟性に欠ける見方をしたりすると、反発を買うことにもなりま

② 「間っ子」は無理をするべからず

間っ子は、協調的で平等精神も強く、きょうだい間のバランスを意識します。適度に自己を抑え、きょうだい間の調整役となります。それでも、抑制が強すぎると無理がたたり、きょうだい間の亀裂が生じます。我慢強いにだけに、修復が困難です。

ものごとを強引に進めることは少なく、対立を避ける柔軟さもありません。何を考えているか分かりにくい面もありますが、他のきょうだいがそのよさを認めれば、自ずとよい関係が保たれるでしょう。

③ 「末っ子」とは型にはまらぬものなり

末っ子は、型にはまらず、思いもよらぬ行動を取ります。他のきょうだいに頼ったり甘えたりする反面、反発心も抱きがちです。きょうだいをライバル視し、負けず嫌いの面もあります。それは、関心を引こうとする末っ子の戦略です。

決断力もあり、リスクを恐れない末っ子

のよさを認めていきたいところです。気がかりな行動を取ることもあります。それをあまり気にかけていると、互いの関係もギクシャクします。過剰反応しなければ、末っ子の面白さも感じられるでしょう。

④ 「一人っ子」は同輩を大切に

当然のことですが、一人っ子にはきょうだい間の付き合いがありません。親など年上の相手との接触が多いため、同年配や年下とのやり取りが少なくなります。同じ目線でのやり取り、つまり、いとこや近隣の友人との接触がより求められます。それが、きょうだい間で生じる様々な体験を補ってくれるでしょう。

さらに、一人っ子の特性に応じた対応ができる同輩の存在は貴重です。一人っ子は、読書や空想にふけるなど、自由な時間を持ちやすいだけに、そうした特性を生かした対人接触が望まれます。

お互いへの理解で 楽しい関係に

きょうだいのそれぞれの特性、親子・きょうだい間の付き合い方について考えてきました。歴史的にも、生まれ順によるきょうだい特性が見られます(例えば、革命の歴史においても、間っ子のリーダーは、苛烈な手段に訴えることなく、目的を達成しようとしたなど)。生まれ順による互いへの理解が深まり、より楽しい関係ができる